chapter

02

BASIC CONCEPT

基本構想

Ⅰ. 将来の人口

Ⅱ. 土地利用の方針

Ⅲ. 将来都市像
-これからの都市のビジョン-

Ⅳ. 基本目標

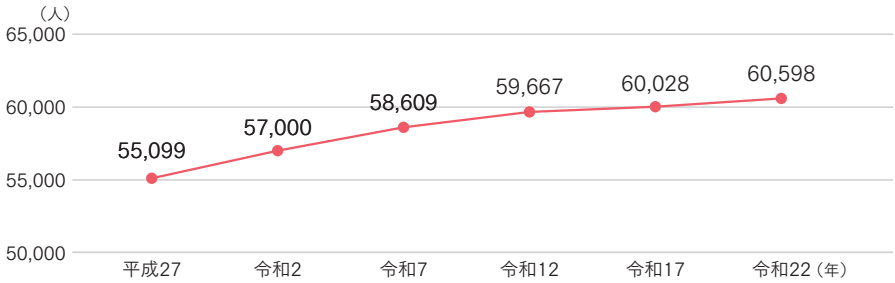
Ⅰ. 将来の人口

人口は、まちづくりの基本的な要素であり、地域活力の基礎となるものです。

野々市市の人口は、令和２年３月に策定した「第２期ののいち創生長期ビジョン」の中で行った独自推計では、令和17年には60,028人となることを見込んでいます。

今後の人口の増加・維持のため、魅力的なまちづくりにより移住・定住化を促進していくほか、出生率の維持・向上につながる環境整備や少子化対策などに取り組んでいくことが必要です。

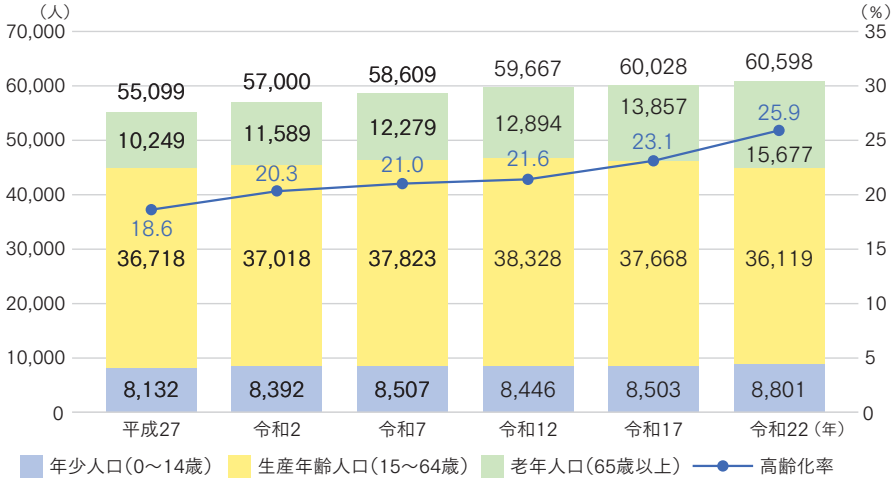
野々市市の将来推計人口



（資料）野々市市「第2期ののいち創生長期ビジョン」

年齢別人口をみると、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）が横ばいで移行し、老年人口（65歳以上）が増加しており、野々市市においても少子高齢化が進行することが予想されます。

野々市市の年齢区分別将来推計人口

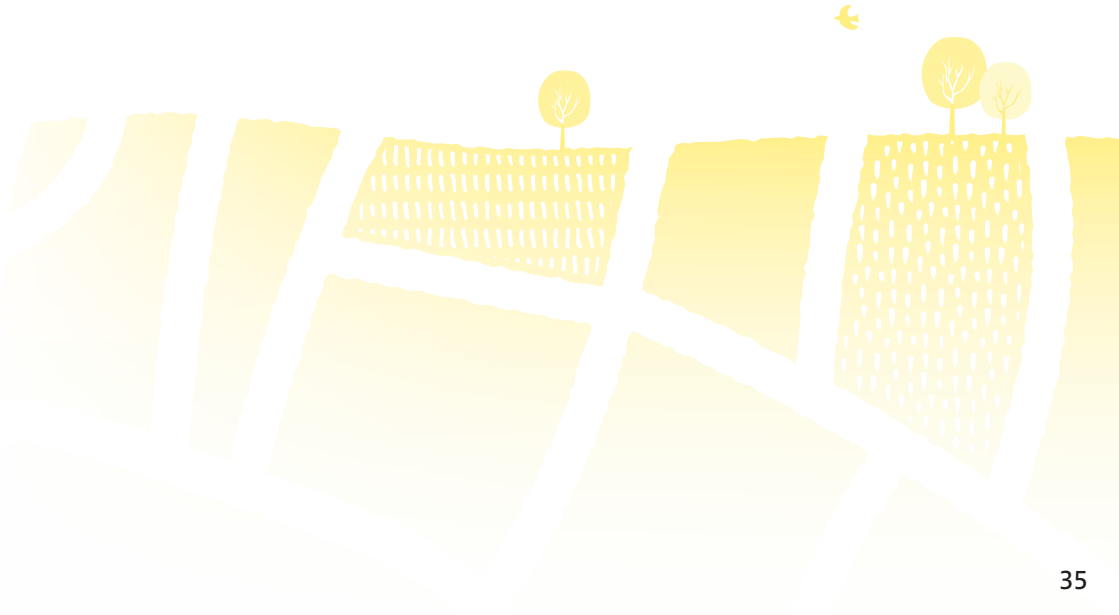


（資料）野々市市「第2期ののいち創生長期ビジョン」

Ⅱ．土地利用の方針

今後の少子高齢化の進展や、近年頻発している自然災害など、まちづくりを取り巻く状況の変化に対応しながら、だれもが暮らしやすく、そして、歴史・文化、自然景観を守り生かした都市づくりを進める必要があります。

これらを踏まえ、都市機能が集約する地区や質の高い住環境を確保する地区、農業の振興を図る地区など、それぞれの地区の特性に応じた基盤整備を行い、野々市市のコンパクトな都市構造を生かした土地利用を推進します。



Ⅲ．将来都市像 ―これからの都市（まち）のビジョン―

これまで検討してきた野々市市の特徴や今後の課題などを踏まえ、今後10年のまちづくりのあり方、10年後に実現したい野々市市の姿をわかりやすく示すため、将来都市像を次のとおり定めます。

「インパクトシティ」には

さまざまな魅力が市の中に入っている	＝	ｉｎ（イン）
インパクトを多くの人に与える可能性をもっている	＝	インパクト
県内一面積が小さい	＝	コンパクトなまち

という意味が込められています。

野々市市は、暮らしに必要な機能や、数々の大学、歴史や文化を感じさせる街並みなど、さまざまな魅力がコンパクトな市域に入っています。この魅力は、市民みんなで磨いていくことで、さらに輝きを増し、市内外の人に大きなインパクトを与えられる、無限の可能性をもっています。

市民の力で コンパクトなまちの中に魅力が詰まった『インパクトシティ』にしていくことで、自分が野々市市民であることにプライドをもつことができ、ますますまちづくりに参加したくなるような、かがやきあふれる野々市市をめざします。

この将来都市像の実現に向けて、分野ごとの大きな柱となる基本目標を定め、将来都市像の実現に向けた具体的な取組と、基本的な姿勢を基本計画で示していきます。

第二次総合計画を象徴するロゴ

市の公式キャラクター「のっティ」と、市の花木である椿（ツバキ）をモチーフにしたアイコンです。

使用している各カラーは、8つある基本目標それぞれをイメージしたカラーで構成されています。

Ⅳ．基本目標

1 だれもがまちづくりの担い手となり、自信をもってアピールできるまち

市民生活

年齢・性別・国籍などにかかわらず、市民一人ひとりがまちづくりの担い手として活躍できるよう、ダイバーシティ（多様性）を尊重し、さまざまなチャレンジができる環境を整えるとともに、地域で支え合い、市民と行政が協働して地域の発展に取り組むことで、市民だれもが野々市市に誇りや愛着を感じて暮らすことができるまちをつくります。

また、野々市市の特色や魅力に市民が気づき、その魅力について自信をもってアピールしていくことで、市民が住み続けたい、市外の人が住みたくなるまちをつくります。

2 心のかよう福祉のまち

福祉・保健・医療

子どもからお年寄りまで、市民同士がつながり、困ったときはいつでも相談でき、互いに寄り添いながら、いきいきと誇りをもって暮らすことができる地域共生社会P154をつくります。

また、心と体の健康、必要に応じた医療・介護・生活への支援や出産・子育ての支援などにより、住み慣れた人や新たに転入された人も健康に、安心して過ごせるまちをつくります。

3 みんなで取り組む安全・安心なまち

安全・安心

子どもから大人まで、幅広い市民が高い防災意識をもち、日頃から防災対策を行うとともに、地域ぐるみで助け合う「共助」による防災機能の向上を図ることで、災害に負けない安全・安心なまちをつくります。

4 環境を考え、みんなで行動するまち

環境

市民一人ひとりが地球環境問題に対する意識を高め、環境負荷の少ない循環型社会P153の構築に向けて、ごみの分別・削減や再生可能エネルギーP152の利用など具体的な取組を進めるとともに、公害の抑制や身近な自然である田園の環境を保全し、季節の彩りを身近に感じることができるまちをつくります。

5 あらゆる世代が交流しながら、生涯にわたって学び、楽しめるまち

教育・生涯学習・文化・スポーツ

複数の大学がある野々市市の特長を生かし、まち全体をキャンパスに見立て、全ての市民が世代を超えて交流しながら、生涯にわたって学習・研究・スポーツ・文化芸術などのさまざまな活動を楽しむことができ、生きがいや心の豊かさを実感できるまちをつくります。

また、学校教育では、基本的な知識、技術、学ぶ意欲を育成する場として、家庭・地域・学校が一体となり子どもをサポートしつつ、大学との連携により広く知識を深め好奇心を育む機会を提供し、のびのびと自分らしく学ぶことができる「ののいちっ子」を育てます。

6　みんなが働きたくなる、活気のあるまち

産業振興・地域振興

お店をもちたい、起業したい、といった、新しいことを始めたい市民を応援し、若者の感性を生かした魅力のあるお店や仕事がたくさんできることや、野々市らしい風土や技術を生かした特産品・製品などが数多く生み出されることで、今住んでいる市民はもちろん、市外の人やUターンを考えている野々市市出身者など、さまざまな人が立ち寄りたい、働きたいと思えるような活気のあるまちをつくります。

また、自宅や職場といった場所を問わず働ける柔軟な就業形態を推進するなど、だれもが働きやすい環境の整備に取り組みます。

7　くらし充実 快適がゆきとどくまち

都市基盤

街並みと自然が調和した美しい景観と、のびのびと過ごせる公園があるまちの中で、バスや自転車などが便利に利用できることで、マイカーに頼り過ぎなくても安全・快適に移動でき、充実した暮らしが送れるコンパクトで快適なまちをつくります。

8　多くの人に魅力が知られ、安心して長く暮らせる、市民みんなが支えるまち

行財政運営

野々市市の魅力を発信し、全国に野々市ファンを増やすとともに、開かれた市政において、だれもが利用しやすい行政サービスを提供し、市民と行政の信頼関係のもとで、幅広い世代、立場の市民によって支えられるまちをつくります。